

私の今までの歩み、 これからのこと

株式会社三祐コンサルタンツ
総合計画部

鈴木仁美



農業土木との出会い

子どもの頃、新聞でアフリカの飢餓に苦しむ子どもの写真に衝撃を受け、海外の食料・経済問題に関心をもち、大学の進路を決める時に農学部を農業経済学科を選びました。在学中は青年海外協力隊やNGOのボランティアに参加することでアフリカや東南アジアの農業・農村開発の現場をみました。そんななか、ODA(政府開発援助)の現場で見た農村の風景が、「農業土木」との出会いであったと思います。そのプロジェクトは水路等の改修とそれを管理する住民団体の設立・研修を行う事業で、私が見学した時は施設の改修が終わり、農業用水が安定して流れ、地域農業が軌道にのって来た時期でした。その事業の受益地周辺に行く途中の町々は、耕地も荒れて、町に活気がない様子でしたが、受益地周辺は、耕地には水が潤い、町に活気があり、農業土木が農業・農村開発の根幹にあると強く感じました。そして、そこで働く日本の技術者から地域開発のやりがいや技術を聞き、技術者として農業・農村開発の仕事に従事したいと考えるようになりました。それと同時に日本の農業について海外の農家の方々に質問を受け、上手く答えられなかった悔しさから、まずは日本の農業のことを知ることも大切だと痛感し、海外と国内の両方で事業を展開している株式会社三祐コンサルタンツを選びました。

現在の仕事について

現在、当社に入社して、一四年目になります。当社は、農村整備事業における調査・計画・設計などを行っており、私は入社以来、国内事業本部の調査計画業務に携わり、国営事業地区等の営農計画の立案・事業の経済効果の算定等を行ってきました。今までで一番印象深い業務は、入社二年目に携わった岡山県の国営事業の業務です。社会情勢や地域農業の変化で、当初の事業計画を見直す必要があり、営農計画・用水計画・施設計画等を見直す業務でした。営農の実態を確認するため、地元にも何度も訪れ、農業関係機関の方々から営農に関する様々な話を聞き、営農計画に反映できるように発注者と議論を重ねました。変更した事業計画書案を本省に承認してもらえよう、発注者の方々と本省担当者の指摘に連日連夜対応する中、事業を進めるといふ目的に向かって一つのチームとしての連帯感を感じました。無事、その事業の変更計画が確定し、事業が進み、新しい頭首工が完成した様子を見た時、苦労して事業計画を立案してよかったと安堵しました。その後、同地区の事業誌を編纂した際、受益内の農地を巡り農家の方々と話す機会がありました。安定して田畑が水で潤い、安心して営農ができるという声を聞いたとき、海外で見た地域農業の発展の礎としての農業土木を思い出しました。将来は国内事業本部で得られた知見を活かして海外事業本部でも活躍できればいいと思います。

仕事と家庭の両立について

現在は、徐々に管理技術者としても業務を任せられるようになり、仕事面で責任を感じる立場になっています。一方、私生活では、主人や職場の助けを借りながら、八歳と五歳の育児などをこなし、仕事と家庭の両立を目指して日々奮闘しています。



現地調査の様子

当社では、令和二年度から女性技術者の働きやすい職場環境を検討するワーキンググループが作られました。以前は、女性特有の体の悩みや仕事と家庭の両立の課題を共有する場が社内でありませ

ん。徐々に女性技術者が増えてきている農業土木の業界で私のように仕事と家庭の両立を目指している方が増えてきているのではないのでしょうか。また、結婚・出産という人生の節目に立ち、仕事と家庭の両立で思い悩む方も多いと思います。私自身、結婚前は仕事を続けながら二児の母になることは想像できませんでした。しかし、自分が結婚・出産という岐路に立った時に出会った他社の女性技術者の先輩方たちとの交流の中で、仕事と家庭の両立という私にとって未知の選択肢に対して興味と勇気が湧きました。また、この経験を通して、女性特有の様々な課題を共有する場が大切だと感じました。

例えば、保育園に急いで送ってから出社するバタバタの生活が朝から始まり、日中は残業が発生しないよう業務に集中し、帰宅後に家事をすませてから、就寝前に子どもたちに本を読んで寝かしつけるという毎日を繰り返しています。家庭では子どもたちが喧嘩をして泣いた、騒いだ等で落ち着く暇もありません。毎日が満身創痍で、時間は高速で過ぎていきますが、家族の存在が日々の活力であり、充実しています。

でしたが、グループ内で課題を共有し、現在の社内制度の理解を深めた上で、よりよい職場環境の創出のため、どのような取り組みが必要か情報収集や制度検討等を行っています。しかし、本来なら女性技術者に限定せず、様々な事情を抱えた方も働き続けられることが重要だと思っています。ワーキンググループの活動はただ最初の一步であり、もっと様々な方を巻き込んで、皆で働きやすい環境を創出できたらと思います。

さて、今回は青木あすなろ建設でご活躍の鈴木七美さんにバトンをお渡ししたいと思います。

鈴木あすなろ建設株式会社
東京土木工事部
農政久保作業所

鈴木
七美



家族旅行先で子ども達と